

第2章 現状と課題

1 前計画の検証

(1) 指標（定員充足率及び就職率）

- 高等技術専門校、技術短期大学校、障害者職業能力開発校、各校の定員充足率及び就職率を目標値として設定している。
- 定員充足率については、施設内訓練（それぞれの校内で実施している訓練）において、令和7年度の実績は30%～60%半ばと目標の95%に対し未達となっている。入校者数に見合った定員数への見直しを随時行ったが、それでもなお、定員充足率が低迷する状況が続いている。
- 〔（要因）各校が主な対象としていた学卒者は少子化の進展や県内産業における人手不足の継続、高卒者の就職率・大学等への進学率の上昇などにより、入校のニーズが著しく減少している。〕
- 就職率については、目標値前後を推移しており、概ね良好な状況となっている。

ア 定員充足率

①施設内訓練

実施施設		訓練種別	目標値 (R7時点)	定員充足率 (入校定員)					目標達成 状況
				R3	R4	R5	R6	R7	
高等技術専門校	広島高等技術専門校	若年	95%以上	66.7% (60人)	66.7% (60人)	60.0% (60人)	35.0% (60人)	40.0% (60人)	×
	呉高等技術専門校	若年		65.0% (40人)	42.5% (40人)	25.0% (40人)	64.0% (50人)	66.0% (50人)	×
		離転職		71.3% (80人)	78.8% (80人)	78.8% (80人)	70.0% (80人)	66.3% (80人)	×
	福山高等技術専門校	若年		62.2% (90人)	55.6% (90人)	67.8% (90人)	62.5% (80人)	66.3% (80人)	×
	三次高等技術専門校	若年		47.5% (40人)	35.0% (40人)	60.0% (40人)	60.0% (40人)	37.5% (40人)	×
		離転職		52.5% (40人)	45.0% (40人)	40.0% (40人)	35.0% (40人)	30.0% (40人)	×
技術短期大学校		高度人材		50.0% (40人)	30.0% (30人)	33.3% (30人)	26.7% (30人)	36.7% (30人)	×
障害者職業能力開発校		障害者		65.7% (105人)	55.2% (105人)	42.9% (105人)	53.3% (105人)	49.5% (105人)	×

（凡例）○：達成、△：達成に課題、×：未達成

②委託訓練（離転職者訓練）

実施施設	訓練種別	目標値 (R7時点)	定員充足率					目標達成見込み
			R3	R4	R5	R6	R7	
高等技術専門校	離転職	95%以上	84.5%	84.7%	76.1%	67.1%	-	×
障害者職業能力開発校	障害者		88.1%	68.3%	95.4%	91.2%	-	△

（凡例）○：達成見込み、△：達成に課題・進捗やや遅れ、×：達成困難・進捗に遅れ

③在職者訓練

実施施設	訓練種別	目標値 (R7時点)	定員充足率					目標達成見込み
			R3	R4	R5	R6	R7	
高等技術専門校	在職者	70%以上	64.5%	87.1%	75.2%	57.0%	-	△
技術短期大学校			60.0%	56.7%	80.0%	27.5%	-	×

（凡例）○：達成見込み、△：達成に課題・進捗やや遅れ、×：達成困難・進捗に遅れ

イ 就職率

①施設内訓練

実施施設		訓練種別	目標値 (R7時点)	就職率				目標達成 見込み
				R3	R4	R5	R6	
高等技術専門校	広島高等技術専門校	若年	95%以上	80.6%	92.9%	87.1%	80.0%	×
	呉高等技術専門校	若年	95%以上	95.8%	100%	100%	90.0%	△
		離転職	85%以上	78.6%	69.5%	76.8%	85.2%	△
	福山高等技術専門校	若年	95%以上	98.1%	97.6%	95.3%	100%	○
	三次高等技術専門校	若年	95%以上	100%	83.3%	100%	100%	○
		離転職	85%以上	77.8%	80.0%	71.4%	92.3%	○
技術短期大学校		高度人材	100%	100%	100%	100%	100%	○
障害者職業能力開発校		障害者	80%以上	77.8%	87.5%	85.7%	90.2%	○

(凡例) ○：達成見込み、△：達成に課題・進捗やや遅れ、×：達成困難・進捗に遅れ

②委託訓練（離転職者訓練）

実施施設		訓練種別	目標値 (R7時点)	就職率				目標達成 見込み
				R3	R4	R5	R6	
高等技術専門校		離転職	75%以上	71.2%	71.7%	73.5%	69.5%	△
障害者職業能力開発校		障害者	55%以上	36.7%	41.7%	43.1%	45.8%	×

(凡例) ○：達成見込み、△：達成に課題・進捗やや遅れ、×：達成困難・進捗に遅れ

2 特に注視すべき環境の変化

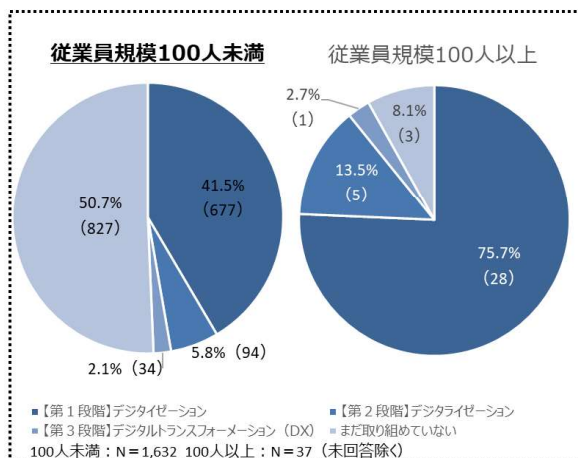
(1) 人口減少社会における生産性向上の重要性

生産年齢人口の減少により、企業等における業務の効率化や、高齢者・女性等の更なる労働参加の促進、製品・サービスの付加価値の向上等による生産性向上の実現が求められています。

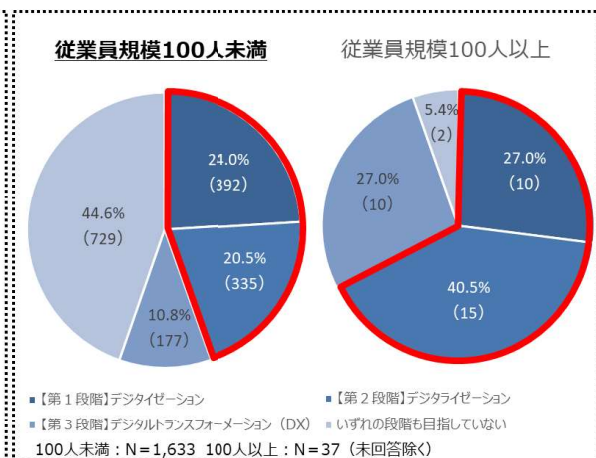
(2) D X 推進の重要性

経済の発展や産業・企業等の成長のために、デジタル技術の活用や導入等の推進が重要となる一方で、県内では、中小企業を中心に具体的な取組は未だ進んでいない状況であり、今後、県内でもD X推進が更に加速していくことが想定されます。

【県内企業における現在のD X段階】



【3～5年後に目指すD X段階】



(出典) 「令和6年度D Xに関する実態調査（広島県総務局D X推進チーム、2024）」を基に作成

（３）円滑な労働移動の実現の必要性

D Xの進展に伴い、労働タスクの変化や個人の新たな知識・スキル習得が求められる中、労働者が高生産性を実現できるタスク・分野への労働移動が絶えず行われる環境が重要となります。

（４）県内の求人求職・人材育成ニーズ※

- 県内企業では、特に現場人材やＩＴ人材が不足している。
- 人手不足の影響により新卒採用が困難な状況となり、未経験者を採用し、企業内で育成するケースが増えているが、中小企業では企業内の人材育成の仕組みが確立していない。
- 企業からは製造工程の自動化、省力化に向けた技術習得（設計やロボット活用等）のニーズが高い。
- 求職者が転職にかかる期間は３か月から６か月程度である。そのため、１年以上の長期の職業訓練は避ける傾向となっている。

※人材紹介業者、広島労働局、製造業を中心とした企業 25 社へのヒアリングの結果より抜粋。

【（参考）各地域の産業特性】

項目	状況等
広島地域	製造業、卸売・小売業が中心。製造業はマツダを中心に、輸送用機械器具製造業の自動車関連企業が多く集積しているほか、生産用機械器具製造関連企業も集積。
呉地域	製造業中心。輸送用機械器具製造業の造船関連企業のほか、半導体関連企業や生産用機械器具関連企業も集積。
福山地域	製造業中心。鉄鋼関連やプラスチック製品製造、輸送用機械器具製造業の造船関連企業、半導体関連企業等が集積。
三次地域	製造業中心。輸送用機械器具製造関連企業のほか、金属製品やプラスチック製造関連企業が集積。規模の大きい企業の集積は多くなく、他地域に本社等がある企業の事業所や工場等の設置がある。

※ 公共職業能力開発施設が設置されている地点を基準に本県を次の４つの地域に分け、産業特性を整理。

広島地域：広島市、大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸太田町、北広島町

呉地域：呉市、竹原市、東広島市、江田島市、大崎上島町

福山地域：三原市、尾道市、福山市、府中市、世羅町、神石高原町

三次地域：三次市、庄原市、安芸高田市